

論点の反映方法と今後のシナリオ展開イメージ - 論点整理より -

九州地域の現状課題

対応の方向性

安全・安心

- ・ 地球温暖化により雨量等の天候の条件が変化
治水、治山事業の採択基準を地方の実態に即して緩和できないか
- ・ 浸水被害の常襲地帯だが、国管理と県管理に分かれている
- ・ 昨年の災害で道路が壊れた為、観光客が半減
- ・ 良質な水を供給するためにも広範囲の山間部の維持が必要
- ・ 通学路の安全対策は喫緊の課題

→方向性1.

- ・ 村営診療所は不可欠で高度医療は村外
- ・ 高齢化が急速に進んでおり、ユニバーサルな道路づくりが必要
- ・ 元気な高齢者による森林や環境を守る仕組みをつくるための投資は重要
- ・ 過疎地域におけるコミュニティ施設
- ・ 少子化対策は、安心して出産できる環境が必要。地方は、周りのつながりが強く、子供を育てる環境が整っている
- ・ 景観は公共の財産との認識
- ・ 質の向上の面では美しさのある社会資本でなくてはならない
- ・ 農業振興地域、景観条例等の規制と開発との調和

→方向性2.

- ・ 「山」「里」にもちゃんと人が住んで国土を守っていけるようにする必要
- ・ 地方部である我々が都市部の環境負荷分を負担
- ・ 自分達で山を守る意識が持てる。又集落を存続出来るシステムの変更が必要

→方向性3.

- ・ 離島・半島・中山間地域においては、人口減少及び公共事業に依存した産業構造などにより、自立と持続的発展が困難な状況
- ・ 急激な人口減少・高齢化により地域が荒廃し、国境・概要離島の有する役割が失われるおそれがある

→方向性8.

- ・ 既存社会資本ストックの総額(日本の社会資本等よりの圏域比較)

- ・ 中国や韓国を中心とした東アジア地域からの観光客は増加傾向にある

→方向性6.

- ・ 既存ストックの維持更新費用の上昇度
- ・ 中心市街地活性化計画の策定状況

- ・ 離島など都市部から離れた地域においては、都市との交流が思うように進まない
- ・ NPO認証数の増加

→方向性7.

- ・ アジア(とくに東アジア)の経済成長と交易の規模および形態
- ・ アジア(とくに東アジア)諸国・諸都市と九州の産業集積における水平分業および交易量・形態
- ・ アジア(とくに東アジア)との定期航空便および航路の頻度と利便性(一日交流・配達・交通結節点の機能(格差))およびアクセス交通網の評価(対アジアおよび対国内圏)
- ・ 圏域各地域の国際交通結節点へのアクセス時間・費用の比較・評価(複数の施設にアクセスできることが大事)

→方向性10.

- ・ 九州近海における水産資源状態の悪化(海域における水産資源状態の悪化及び外国漁船との競合)
- ・ 他圏域に比して豊富な農水産物の品目数
- ・ 輸出農水産物の品目および生産地の多さ
- ・ 全国の人気温泉地の多さ
- ・ 神楽等伝統芸能の継承・保存の現状

→方向性4.

- ・ アジア(とくに東アジア)諸国・諸都市と九州の産業集積における水平分業および交易量・形態
- ・ 既存産業集積(臨海および内陸)の産業立地としての国際・国内競争力の比較・評価
- ・ アジア(とくに東アジア)の経済発展による環境負荷の悪影響的見通し
- ・ 圏域内食料自給率および国内自給率への圏内1次産業の寄与度
- ・ 輸出1次産品品目および物流形態・量・コスト
- ・ 訪日外国人客訪問率および認知度等

→方向性9.

- ・ 海外技術者および研修生の実績数、圏内留学生数およびその域内定着率等
- ・ 既存研究機関等のアジアとの連携実績等

→方向性11.

生活の安全と豊かな環境を目指す小委員会

1. 防災、減災と危機管理体制の充実

- 防災、減災と危機管理が一体となって実現する安全な九州の将来像(本小委員会基本論点)

- 食の安全・安心(供給、消費)、水の供給(域内、域外)
- 安全で安心して歩ける地域

○ 九州の安全と国家の安全

2. 自然との共生による安全の確保

- 災害を防ぐ森林の保全・再生
- 森林から漁場までが一体となった管理
- 農地の保全
- 自然にやさしい海づくり・川づくり
- 野生動植物の多様性の保全
- 地球規模の環境問題への取り組み

3. 豊かな環境と安心を実現する九州

- 福祉、医療等の社会サービスのあり方

- 「新たな公」の概念にもとづく多様な主体の社会参画と連携
- 少子高齢化に対応した既存ストックの活用

○ 景観の形成

8. 地域による防災・国土保全社会の実現

- 農地の保全
- 災害を防ぐ森林の保全・再生と林業の支援

- 歴史・文化を意識した国土の保全・管理
- 離島・半島(海洋・沿岸域を含む)や中山間地域(農地・森林等を含む)及び農山漁村等の有する国家的・国民的機能

活力ある経済社会を目指す小委員会

9. 東アジアと一体化する九州におけるシームレスアジアの実現(九州におけるアジア・ゲートウェイ戦略)

- アジア(東アジア)と一体化した九州における生活・産業の将来像(本小委員会基本論点)
- 九州の地理的優位性を発揮するための交流のあり方
- そのための物流・人流・情報交流基盤のあり方
- アジアとの交流による効果を九州全圏域に行き渡らせる仕組み

11. 東アジアと一体化する九州における学術研究・教育・文化機能の強化

- 産業競争力を維持するための学術・研究機能のあり方
- アジア共通の学術・研究課題

10. 東アジアと一体化する九州における産業競争力の強化

- 加工組立産業(自動車等)が九州に立地するメリットの維持・強化
- 素材・部品(鉄鋼・化学・半導体等)が九州に立地するメリットの維持・強化
- アジアの課題やニーズに対応した九州における新たな産業集積の創出
- アジア市場への対応のための農工連携のあり方
- 食の安全・安心を担保する農工連携の方向性
- アジア観光需要に対する九州各地の国際競争力強化および連携
- アジアとの交流による効果を九州全圏域に行き渡らせる仕組み

4. 豊かな地域資源を活用した地域活性化

- 豊かな地域資源などを活用した魅力的なライフスタイルを確立する場としての個性ある地域づくり
- 地域が持つ豊かな自然・伝統文化等の地域資源の活用
- これまでに蓄積された技術を活かした成長産業の育成
- 地場産業等の輸出促進
- 農林水産業の生産性・収益性の向上
- 環境にやさしい農業の展開
- 環境への負荷を軽減する環境保全型農業
- 水産資源の回復と持続的利用のための資源管理型漁業

小委員会間で連携・検討

自立的発展を目指す小委員会

5. 既存ストックの活用・再生も含めた社会基盤整備

- 九州圏の環境負荷の最小化(資源循環型社会、環境配慮型交通体系)
- 地域生活交通システムの形成
- 人流・物流・情報交流の基盤整備
- バランスの取れた社会資本整備(法第2条の各号に関係)
- 少子高齢社会に対応できる社会基盤の整備と地域活力の維持
- 低成長または少子高齢社会に対応できる既存ストックの活用
- 都市の再生(臨海地区の再生、中心市街地の活性化)
- 中山間地域を支える地方中小都市の整備
- ブロックの拠点都市から離れた地域における地方中核・中心都市の整備
- 市町村合併を契機とした新しいまちづくりの支援

6. 重層の生活交流圏・ネットワークの形成

- 九州圏内における自立地域社会形成のための一体化の推進
- 都市と農山漁村との交流活動
- 各地域の文化や特性を活かした交流
- 観光・産業・文化など様々な側面からの「交流人口」の増加
- 拠点都市の積極的な役割と都市圏の連携
- アジアと一体化した生活交流圏の構築
- 住民の国際交流の充実と国際力の強化、外国人の生活環境の向上

7. チャレンジ社会の基盤整備と参加型社会の実現

- 「新たな公」への官業開放と事業機会創出
- 農林水産分野と工業分野との融合・連携、産学官連携
- 産業を支える人材の育成と供給
- 定年後の団塊世代が田舎で再び活躍できる「人生二毛作」
- 農林漁業で再チャレンジできる「スローライフ&自助、互助による活力ある地域コミュニティづくり
- 多様な主体の社会参画の実現
- NPO・ボランティアが活動しやすい環境づくり
- 民間との協働・連携の推進
- 行政・企業・地域社会が支え合う仕組み

地域

アジア